

J-3:国際化推進

開催日時・会場 9月17日(木曜日) 15:15 - 16:45 会場B

研究力強化に向けたURA組織による 国際交流支援体制の在り方

研究力強化に向けた若手研究者海外交流等の国際交流支援において、大学の国際関連組織とURA組織との効果的な連携体制の在り方や、URAの専門性を活かして具体的にどのような貢献ができるか等について、経験豊富な登壇者を通じて課題共有を図り、大学におけるURA組織による国際交流支援制度の在り方について考える機会を提供するセッションです。

大学で国際交流事業を推進するためには、執行部の下で、それに関連する研究者、URA等の専門人材、事務職員等がその総合力を結集することが求められています。しかし、縦割りになりがちな大学組織においては国際交流事業を進めるにあたって直面しがちな課題も多く存在します。URA等の専門人材がどのように活躍し、どのように成果を上げて組織に貢献していくことができるのかについて、異なる部門間でのコミュニケーション、文化の異なる外国人研究者とのやり取り、そして、学内・学外の調整を含めた複雑なマネジメントなど、実務的な視点から論じます。また、過去及び現在の国際交流事業の成功事例も参考にしながら、より効果的・効率的な組織の在り方や仕事の進め方などについても議論します。さらに、コロナ禍という未曾有の世界的な危機の中、より実効的な国際交流支援の在り方や、ポストコロナ社会に出現するであろう新たなアカデミアにおける国際交流事業の在り方についても考える場にしたいと思います。

セッション後半ではぜひ活発な議論を展開したく、積極的にご聴講の皆様にもご意見・ご質問を頂戴できればと考えております。

セッション担当者

Marc Hansen : 東北大学 研究推進・支援機構
URA(特任助教)



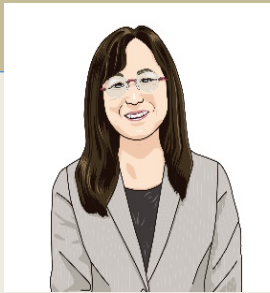
ドイツ生まれ。トリーア大学第二学部日本学科修士課程修了。卒業後は日独間における政治教育プログラムに携わり、それを機に2009年来日。以来ドイツ語講師として秋田大学および東北大学で授業を担当。2011年以降は東北大学国際交流課にて国際交流オフィサーとして勤務(兼任)。2014年4月東北大学研究推進・支援機構URAセンター着任。本センターでは主に研究力分析を担当しているが、国際戦略室の業務にも携わっている。

登壇者

三隅 多恵子: 東北大学 国際連携推進機構
特任准教授／コーディネーター、上席URA

カリフォルニア州立大学大学院修士課程修了。政令指定都市国際部主査（アジア諸国との共同研究事業、国際交流事業担当）、東北大学大学院法学研究科GCOEプログラムのマネージャー（研究企画、国際展開担当）、同法政実務教育研究センター講師（国際共同教育、国際交流支援業務担当）等を経て、2018年度より現職。コーディネーターとして、国際コンソーシアムや戦略的な国際パートナー大学との共同研究、連携推進を担当。

房木 ノエミ: 東北大学 研究推進・支援機構
上席URA（特任准教授）



博士（保健学）東京大学。大学でのウイルス、がん、免疫、細胞内シグナル伝達、再生医療に関する研究を基盤とし、企業ではがん診断薬、免疫療法、安全なiPS細胞の樹立法の確率を目指した研究開発を行ってきた。2017年から大学と企業で培ってきた知識や経験、研究者ネットワークなど多様な実務経験を活かし、現職。また知の創出センターにて国際シンポジウムの開催や若手国際共同研究のコーディネーター業務を担っている。

三代川 典史: 広島大学 学術・社会連携室
学術・社会連携部 URA部門
シニア・リサーチ・アドミニストレーター



在東京オーストラリア大使館教育部勤務の後、修士号をロンドン大学（教育政策学）、シンガポール国立大学（公共政策）で獲得。米国ペンシルベニア州立大学でPh.D.（高等教育管理）を取得後、同大学グローバル事業本部で本部長付研究員として勤務。2014年より広島大学学術室に所属し、研究活動の国際化推進を担当。ライティング・センター、国際科学広報、国際会議開催支援等の運営を統括。2017年よりRA協議会国際専門委員会委員長を拝命。

Harold Kusters: 九州大学
研究・産学官連携推進部グラントサポート室
室長（リサーチ・アドミニストレーター）



オランダ出身。ライデン大学卒業。広島大学大学院にて博士号取得。2012年にURAとして九州大学学術研究・産学官連携本部に雇用され、国際研究、産学官連携、研究資金獲得及びそれに関連する業務を担当。現在、研究・産学官連携推進部グラントサポート室長として研究推進及び外部資金獲得を担当。